

Q

認知症サポーターの役割は

A

自分のできる範囲で活動する

金泉婦貴子 議員

質問一 本市における認知症患者の状況について。

二 認知症サポーターの状況について。

三 認知症サポーターの体制づくりについて。

四 今後の活動について。

答弁一(市長) 正確な人数は把握できないが、平成21年度の介護認定審査を受けた延べ1669人

中、主治医の意見書から認知症とみられる者は延べ872人である。

二 20回の講座を開催し、863人の認知症サポーターがいる。字別ではほぼ満遍なく分布しているが、鶴ヶ丘、下新田、三ツ木地区が若干多い。

三 認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、自分のできる範囲で活動することを基本としている。



認知症サポーター養成講座

る。このため、連絡会等の組織づくりは考えていない。サポーターをフォローする講演会などを計画していく。

四 行方不明者が出た場合の自宅周辺での捜索や災害時における福祉施設での救出・救助の協力員などへの協力を呼びかける。

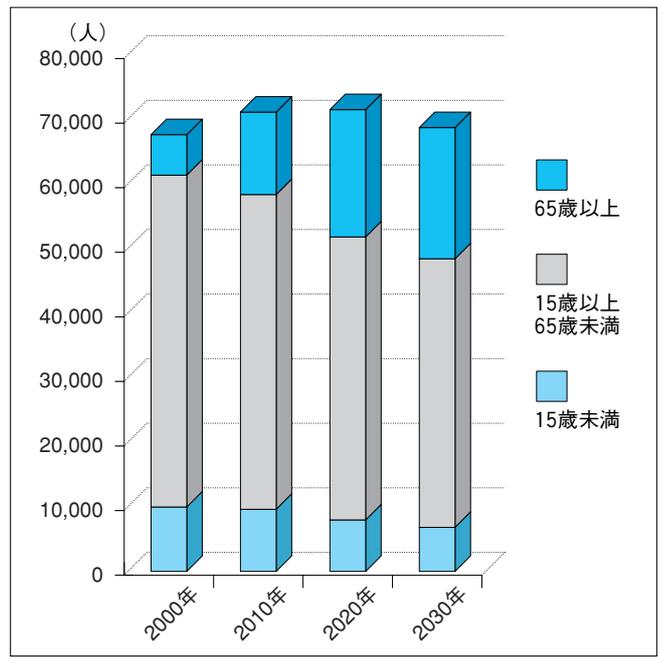
◎その他の質問  
一 要援護者の支援体制の整備について

二 一斉清掃について

Q 市民の年齢構成の推移見通しは

A 高齢社会に対し、着実に取り組む

田口 幸央 議員



市の人口構成の推移 (推計)

質問一 本市の人口構成推移は。

二 人口構成の変化に伴う本市の課題は。

三 どのように対応するのか。

答弁一(市長) 本市の人口は、西暦2000年が6万7638人、2010年以降は推計数値で2010年が7万1128人、2020年が7万1511人、2030年が6万8728人と予測している。

本市の推計人口は、2020年までは緩やかな増加を見込んでいるが、その後減少に転じ、2020年には高齢化率の急激な上昇とあわせ、本格的な人口減少、超高

齢社会を迎える。

二 今後見込まれる全国でもトップクラスと言われている驚異的な高齢化率の上昇は、大幅な税収の落ち込みと財政不安を招くことが予想される。地域福祉の充実など課題が山積しているが、限られた財源と時間の中で一つ一つ着実に取り組んでいく。

三 市民活動の拠点整備や地域におけるまちづくりの推進、民間の持つ優れた技術、ノウハウの活用など新しい公共という新たな枠組みのもと、互いに支え合い、助け合う仕組みを創造していく。